

学位被授与者氏名	杨 宪霞（よう せんか）
論文題目	副詞における否定表現についての中日比較
論文審査結果の要旨	<p>中国語と日本語の否定作用域（scope）は反対になっており、日本語の前スコープに対して、中国語は後スコープになっている。これにより、両言語における否定研究は理論的で且つ教育上の実用的な意義があると認められている。本論文はこのような大きな背景のもとでの否定研究として、副詞の中に常用される三種類を選定し、それぞれの否定形式を観察し、両言語の比較対照を行い、価値のある研究と思われる。</p> <p>結論として、「範囲副詞は否定詞と共に起る際に音節の数量に関係がある」「否定詞は時間副詞の前に置く場合は部分否定で、後に置く場合は全面否定である」「副詞の否定形式の成立か否かが文の種類に関係があり、平述文と疑問文・仮定文が異なっている」などのまとめは、同分野の先行研究における幾つかの観点を更に明らかにしたことになり、修論として評価できると思われる。</p> <p>しかし、本研究の分類は殆ど李宇明（2000）、袁毓林（2006）、張国憲（2006）などをそのまま利用し、自分なりの手法と観点が乏しい。また比較研究として、例文の対訳に止まることが多く、異同、特に「異の成因」についての分析があまり見られない。各節の論述は重複が多く、不自然な日本語表現もあると思われる。</p> <p>平成 24 年 2 月 29 日に、北九州市立大学北方キャンパス 3 号館 320 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士（中国言語文化）として合格基準に達した内容であると判定した。</p>